

第9回 富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会会議 会議録

1 会議の名称	第9回 富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会
2 開催日時	令和5年9月28日(木) 午後1時30分から午後3時15分まで
3 開催場所	富津市役所4階 401会議室
4 審議等事項	議題 (1) 令和5年7月14日青堀小学校児童ワークショップの結果報告 (2) グループディスカッション テーマ「校舎の空間イメージについて」 (3) 令和4年11月17日第5回検討委員会グループディスカッション結果に対するアドバイザー講評
5 出席者名	(委員) 河野 信成、安藤 玲仁、野尻 剛史、檜山 小百合、 高橋 栄美子、若月 忠光、平野 恵子、平野 勉  <行政経営アドバイザー> 千葉大学大学院 工学研究院 柳澤 要 教授  千葉大学柳澤研究室の学生 3名  (事務局) 教育総務課長 中山 淳子 教育総務課施設係長 山下 知哉、教育総務課主任主事 鈴木 賛 教育総務課主任主事 鳥海 翔也、学校教育課主幹 宮崎 悟 都市政策課長補佐 草刈 孝昭、都市政策課主査 河井 隆朗  (基本構想・基本計画策定支援受託者) 株式会社榎本建築設計事務所 高梨 修、神野 マミ
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	4人
9 所管課	教育部教育総務課施設係 電話 0439-80-1348
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

第9回 富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会会議録

発言者	発言内容
事務局 (山下係長)	<p>&lt;次第1 開会&gt;</p> <p>皆様こんにちは。本日はご多用のところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。会議の進行を務めさせていただきます、教育総務課の山下です。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は柳澤アドバイザー及び千葉大学柳澤研究室の学生の皆様にも、ご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。それでは開会に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。</p> <p><b>【資料確認】</b></p> <p>それでは、ただいまから第9回富津市立青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会を開会いたします。</p> <p>本日の委員の出席状況を報告させていただきます。10名の委員のうち、榎本委員、小柴委員におかれましては、欠席のご連絡をいただいております。従いまして、出席委員8名、欠席委員2名でございます。なお、本日、傍聴者が4名いらっしゃることをご報告させていただきます。</p> <p>それでは議事に移ります。以降の会議の進行につきましては、平野委員長にお願いいたします。</p>
平野委員長	<p>改めまして皆様こんにちは。よろしくお願いいたします。</p> <p>&lt;次第2 会議録署名人の指名&gt;</p> <p>それでは次第の2、会議録署名人の指名でございますが、今回は安藤委員と檜山委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>

<p>事務局 (中山課長)</p>	<p>&lt; 3 議題 &gt;</p> <p>それでは次第の 3、議題に入らせていただきます。事務局、説明をお願いします。はい、中山課長何かありますか。</p> <p>議事に入る前に、前回会議において、安藤委員からご質問がありました、体育館の事業費を借り入れて賄おうとした場合、利息がどの程度になるのかというご質問に対し、回答が保留となっておりますので、お答えいたします。</p> <p>お手元に「青堀小学校屋内運動場改築に係る借入金試算について」と題した資料をお配りしております。こちらをご覧ください。</p> <p>事業費を 8 億 1800 万円といたします。これに対して最大限の借り入れをすると仮定して試算をしております。</p> <p>1 の財源内訳をご覧ください。事業費 8 億 1800 万円に対する財源としては、国の交付金は 7300 万円。これは交付金対象事業費の 3 分の 1 が交付されます。2 行目の地方債、これが借入金であり、6 億 8100 万円です。事業費 8 億 1800 万円から、国交付金 7300 万円と地方債 6 億 8100 万円を差し引いた残り 6400 万円は一般財源を充てる計算となっております。</p> <p>2 の活用する地方債の種類と償還期間等について、(1) の財政融資資金は、国の交付金の対象となる部分と借り入れ割合と対象とならない部分の借り入れ割合を合算して試算しております。(2) の千葉県一般事業資金は、国の交付金や他の地方債の対象とならない部分が対象となります。(1)、(2) とともに、償還期間、利率、償還方法等は起債の条件の下で計算しております。</p> <p>それぞれの借り入れに伴う利子を加えた 3 の元利償還金総額は、7 億 4900 万円という試算結果です。そのうち、利子分は 6800 万円となります。前回会議でのご質問への回答は以上です。</p>
-----------------------	--

また、回答の資料に併せまして、今年度作成いたしました、富津市中期収支見込み(令和6年度から10年度)の報道発表資料及び抜粋として、普通建設事業費等の計上事業の一覧部分をお配りしております。

本年度の中期的な見通しを立てた中で、本市の全ての事業にエネルギーや物価高騰等の影響が大きく出ております。ですが、これに対する国や県からの補助金というのは、物価高騰に見合った大幅な増額は見込めません。学校施設だけでなく、他の普通建設事業の財源も、地方債という借金に頼らざるを得ない状況となります。後の年度に、借金の返済金額が急激に増加し、将来に向けて持続可能な行政経営が困難になることが危惧される見通しとなりました。

こうしたことから、市では改めて事業手法の見直しや、優先順位について再検討を行い、市民サービスへの影響を考慮し、事業の選択を行っております。今年度作成の中期収支見込みでは、環境センターの整備事業や、本庁舎の改修事業等を一時休止することで、学校施設整備にあたる大佐和中学校体育館と青堀小学校校舎の改築に必要な財源を見込むことができております。

体育館と校舎を一緒に作る、または、将来的に体育館を作ったとしても、借金をしなければ作れないことには変わりありません。ですが、将来に向け、安定した財政運営を継続させるためには、借りられるなら借りようということではできませんので、そのために見直しを行いました。事業を休止したり、見直ししたりした事業にも、影響を受ける市民の方もおられます。そうした中でも、青堀小学校の校舎を優先し整備いたします。

ですが、将来の負担を抑えていくために、体育館の改築を先に送らざるを得ない厳しい財政状況だということをご理解いただければと思います。以上でご説明を終わります。

平野委員長	<p>ただいま事務局より、前回の検討委員会でご質問をいただいた内容についての説明がございました。今の説明に関して、ご意見、ご質問等がございましたらよろしく申し上げます。はい、安藤委員。</p>
安藤委員	<p>ご回答ありがとうございます。富津市の収支見込みを拝見いたしましたして、やはりまだ多少は体育館も作っていただきたいなという思いはあるものの、致し方ないのかなと考えます。</p> <p>また、現実的な話ではないかもしれませんが、財政状況が変化したときや、国から補助金をさらに受け取れるといった話になったときには、またご検討いただければありがたいと思っております。以上です。</p>
平野委員長	<p>はい、ありがとうございます。その他の方で何かご意見ご質問等ございましたら申し上げます。よろしいでしょうか。他にご意見ご質問等ないようでございますので、引き続き議題に移りたいと思います。</p> <p>それでは、議題1、令和5年7月14日青堀小学校児童ワークショップの結果報告に入ります。児童ワークショップの企画運営をしていただきました、千葉大学柳澤研究室の皆様から報告をしていただきます。それでは柳澤アドバイザーよろしく願いいたします。</p>
柳澤教授	<p>よろしく申し上げます。青堀小学校の6年生の児童の皆さんを対象に全クラスでワークショップを行いました。その結果について資料1の方でまとめております。内容について、担当した学生から簡単に説明させていただきたいと思います。</p>
千葉大学生1	<p>それでは青堀小学校児童のワークショップの結果報告をさせていただきます。初めに、ワークショップの概要について説明させていただきます。</p> <p>2つのワークと事前アンケートを行い、1つ目のワークは、①「みんなで新しい学校の教室空間を考えてみよう！」です。</p>

グループごとに、教室に加えて廊下や図書室等の諸室の空間について考えてもらうワークを行いました。学校の先進事例の中から4つの写真を提示して、その中から好きなものを選択する。そして、選んだ写真について、どういった要素で選んだのかという理由を答えてもらい、グループワークを通して、児童たちにディスカッションしていただくようなワークを行いました。

2つ目のワークは、②「自分の居場所を地図で表してみよう！」ということで、現在の青堀小学校の平面図を各教室に1週間ほど掲示させていただき、平面図に該当するシールを貼ってもらいました。シールには5つの種類があり、例えば好きな場所には赤いシールを貼ってもらうといった形で、児童がどのような場所で、どのような活動をしているのかということを目視化して、結果を今後に生かすというようなワークです。

③アンケートでは、事前にアンケート資料を配付し回答していただきました。このアンケートは新しい学校作りに生かせる内容を考えたので、今後の基本計画等に組み込んでいただければ良いのではないかなと考えております。

千葉大学生 2

はじめに、①「皆で新しい学校の教室・空間を考えてみよう！」について報告します。

まず、6年1組の教室の結果です。4つの教室の写真は、①カラフルで楽しそうな空間、②落ち着いた雰囲気です窓の形や採光の取り方が特殊な空間、③従来の形に近い教室ではありますが、かなり廊下に対して開放的な空間、④かなり開放的な空間です。

4つの写真から、児童がどれを選択したかということ、先進的なものや楽しそうなものを選択すると予想してはいたのですが、③の教室が最も選ばれていました。選んだ理由として最も多かったのが、おしゃれで雰囲気が良い、広い等の意見もあって、

<p>千葉大学生 3</p>	<p>見た目や広さといった設備面での意見がメインとなっていました。また、採光や通風、植物がある等の環境面の整備も児童は求めていたことが分かりました。他にも内部空間の居心地の良さや、授業に集中できる空間等も求められていました。</p> <p>続いて、6年2組の教室の結果です。6年1組と同様の意見が多い印象を受けたのですが、①の教室も人気がありました。選んだ理由も、類似している部分が多いのですが、かなり見た目が重視されていました。おしゃれ、雰囲気が良いといった意見に加えて、カラフルで色が良いといった意見がありました。</p> <p>教室に関しては、黄色は元気が出る、とても楽しそうといった色から受ける印象についても、児童は感じていることが分かりました。</p>
<p>千葉大学生 1</p>	<p>続いて、6年3組の教室の結果です。他クラスと同様に、③と④の写真が多い結果となりました。理由についても、やはり広い空間といった環境面の意見が多くありました。他クラスと違った意見として、③の写真に見られるランドセルボックスが大きく、収納できるスペースが大きいから良いという意見がありました。青堀小学校の教室の現状に対して、ここを直してほしいというような改善点から写真を選んでも児童もいるということがわかりました。</p> <p>クラス毎の写真を選んだ理由の上位の比較を棒グラフで示しました。③と④の写真が多く選択されており、写真を見た第一印象から、目で見て良さが伝わる部分にフォーカスしている児童が多いなという印象でした。</p> <p>また、先ほど申し上げたとおり、現状の学校の改善点から写真を選んでいる児童もいたので、感覚だけではなく、実際に利便性等も考慮している児童も多い結果となりました。</p> <p>続いて、廊下です。4つの写真は、①教室から廊下、土間と続いて直接外部空間に通じるもの、②従来のな片廊下型の廊</p>

下、③広いオープンスペースがある廊下、④吹き抜けで開放的な廊下です。

結果としては、③と④の写真が好印象だったことがわかりました。教室同様に、児童が選んだ理由は広い、開放感があるという結果ですが、このワークの特性上、写真を見て第一印象から選ぶことが多いと思うので、広いとか開放感をキーワードにしている児童が多いのかなと感じました。

続いて、図書室です。4つの写真は、①本棚が天井まで続いている特徴的な空間、②階段と本棚が隣接していて、途中の段差で座りながら本が読める空間、③円形で特徴ある形の空間、④特徴的な形の本棚に加え、読書スペースが段差になっており、ちょっとした遊びができるような空間です。

多く選ばれた写真は、②、③でした。③の理由として印象的だったのは、本棚が低いため低学年も手が届きやすく、使いやすいというような意見で、やはり利便性の面を重視していました。

続きまして、児童ホールです。4つの写真は、①壁に文字が書けるような機能がついている空間、②囲まれた空間、③天井が高く、窓が大きい空間、④床に座ってコミュニケーションが取ることができ、開放的な空間です。

結果は、割れる意見となりましたが、②、③、④が多くなりました。理由としては開放的が多く、子どもたちは広さを気にしていました。その中でも②や④の写真は、友達とコミュニケーションを取りやすいといった意見もありました。①は、選択した児童は少なかったのですが、壁に文字が書けたり、追加機能も良いのではないかという意見がありました。

続きまして、中庭です。4つの写真は、①広く開放的な空間、②スポーツができる空間、③自然のある空間、④遊具のある空間です。かなり特徴のあるものを選択肢として挙げさせていた

千葉大学生 3

できました。

結果は、①、②、③の写真を選択している児童が多く、②の広さやスポーツができる空間を好んでおり、③では、自然といった、落ち着ける空間の要素が好まれているという印象を受けました。この結果から、活発な活動ができる空間と、落ち着ける空間がどちらも求められていることが分かりました。

次にトイレです。4つの写真は、①裏路地のような空間、②トイレ前の共用部分が交流空間になっているトイレ、③中まで交流空間となっているトイレ、④従来に近いトイレです。

結果は、④の写真が半分近く占めており、トイレに関しては普遍的な従来に近い形を求めているということがわかりました。また、②と③のトイレのような向き合う手洗い場の形が良いという意見もあり、機能面についても求められていることが読み取れます。

次に音楽室です。4つの写真は、①大学に近いような開放的な空間、②囲うような形で外と繋がりが強い空間、③ホールのような空間、④音楽をする場所が別棟になっているおしゃれな空間です。

結果は、圧倒的に③と④が多く、あまり従来のような普通の音楽室の形を求められていないのかなと考えます。このような結果になった理由については、音楽室が特別な空間であるため、普段とは離れた場所にあることを求めているのではないかと感じました。

それに加え、発表のしやすさや授業を受けやすいような音楽室といった機能面を求める意見もありました。

2つ目のワークの報告です。内容は、校舎のマップに、好きな場所、ゆっくりしたい場所、勉強したい場所、遊びたい場所、おしゃべりしたい場所にシールを貼るというものです。

6年1組の結果です。基本的に教室、図書室、体育館、中庭、

グラウンドに児童が集まっていることが分かります。

好きな場所については、教室が一番人気となっていて、基本的な居場所が教室であるのかなと感じました。また、お喋りしたい場所やゆっくりしたい場所でも教室が人気となっていました。特に、6年1組はかなり教室に人気が集まっています。遊ぶ場所としては、体育館やグラウンドが選ばれています。

好きな場所について、活発な理由と落ち着いた理由で二面化しており、お喋りができる、楽しい等の活発な意見に対して、静かで落ち着ける等の理由で場所を選んでいる児童に分かれていました。

ゆっくりしたい場所や勉強したい場所については、静かな環境、落ち着けるといった意見に加えて、植物があることや、風通しが良い等の環境面の配慮も求められていました。

お喋りしたい場所については、他クラスや多学年と交流ができる等の、クラスというまとまりを超えた交流ができる理由で選んでおり、児童は広いコミュニケーションを求めていることが分かりました。

続いて6年2組の結果です。6年2組も教室や図書室の人气がどの分野でも多いなという印象です。体育館やグラウンドは、児童の遊びたい場所選ばれています。

6年2組の特徴としては、教室や図書室の他に、中庭や池に人気があり、ゆっくりしたい場所、落ち着ける空間として選んでいました。他には、児童ホールといった小さな空間も好まれる結果となりました。

おしゃべりしたいときの選んだ場所の理由についても、6年1組と同様、他のクラスと喋れるといった、より広い交流を必要としている印象でした。

続いて6年3組の結果です。他のクラス同様、教室を選ぶ児童が多いです。やはり教室で過ごす時間が最も長く、居心地が

千葉大学生 3

千葉大学生 1

<p>千葉大学生 2</p>	<p>良く、居慣れているということが理由の1つとしてあるのではないかなと思うので、教室を、児童にとって居心地が良く特別な空間にしていくことがかなり重要であると感じました。</p> <p>6年3組の特徴として、ゆっくりしたいときやお喋りしたいときに、屋上に続く階段を選んだ児童がいるように、自分たちなりのお気に入りの場所や心が落ち着けるような場所を見つけて、そこで過ごしている児童もいることが分かりました。</p> <p>他のクラス同様、ゆっくりしたいときは落ちつける場所として静かな場所や居慣れている場所を選んでいました。</p> <p>また、他クラスと異なる点として、6年3組は棟の一番端に位置しています。6年1組の場合ですと、隣接している高学年ルーム、トイレといったところが選ばれていたのですが、一番端に位置していることから、そういった場所は使われずに、教室に集中していました。</p> <p>これらの結果を分析していくと、クラスごとに特徴があることが分かりました。</p> <p>6年1組は、複数の要素で教室に集中していることが読み取れます。それに加えて、トトロの部屋や、仲良しルーム等の児童独自の空間意識を持っていることが読み取れる結果となりました。</p> <p>6年2組は、1人の場合は図書室、友達と一緒にいる場合は、グラウンドや体育館に集中しているといった、空間の使い分けをはっきりしている結果となりました。</p> <p>6年3組は、他のクラスに比べて、中庭がかなり様々なシチュエーションで使われていました。</p> <p>これらの結果から、クラスごとに居場所であったり、その場所を選ぶ目的は異なってくるのかなと感じました。</p> <p>次にアンケートの結果に移らせていただきます。好きな授業形態、好きな活動、好きな遊びをそれぞれ4つの選択肢の中か</p>
----------------	---

<p>千葉大学生 3</p>	<p>ら1つ選んでもらうアンケートになります。</p> <p>好きな授業形態については、通常授業の形式が一番人気がなく、グループ学習や、体験的な学習、屋外での授業というような活動的な授業が児童にとっては人気でした。</p> <p>好きな活動については、給食が半分を占めており、縦割り活動も該当しますが、人とコミュニケーションが取れる時間が人気であることが分かりました。</p> <p>好きな遊びについては、運動や屋外での遊びが最も求められていることが分かります。</p> <p>次のアンケートでは、学校の良いところと直してほしいところを児童に聞きました。</p> <p>良いところは、改修工事が行われたトイレ、遊べる場所として体育館やグラウンド等、環境が良い場所や遊べる場所を児童は好んでいるとの結果がでました。</p> <p>設備以外に、空間の広さについて児童は気にかけており、他には自然の多さも良い面としてとらえているという結果となりました。</p> <p>反対に、直してほしいところについては、全体的にみられる老朽化の改善を児童も意識しているという結果でした。他にも、バスケットゴールや遊具など遊びのための設備もさらに欲しいという意見がかなり見られました。</p> <p>以上のアンケートやワークの結果から、児童の好みや選定理由は想像していたより遥かに現実的なものが多いと感じました。先進的な事例が選ばれることを予想していたのですが、普遍的な事例を選ぶ傾向があり、普段使っているなじみのあるものを児童は良いと感じていて、先進的なものについてはイメージが湧きづらいということにも起因するのではないかと考察しました。</p> <p>児童はどの空間を考えるにしても「広さ」に重点を置いてい</p>
----------------	--

<p>千葉大学生 1 柳澤教授 河野副委員長</p>	<p>おり、より広い、あるいは広く感じさせるような開放的な空間を求めています。</p> <p>あとは、コミュニケーションを取りやすいような環境も気にしているかなと思いました。友達とのコミュニケーションを非常に大切にしており、より円滑なコミュニケーションを促せるような仕組みを空間に持たせることが必要だと感じました。</p> <p>以上で結果報告を終わります。</p> <p><b>【一同拍手】</b></p> <p>質問等がございましたら、お願いいたします。</p> <p>もし校長先生から何かございましたらお願いします。</p> <p>ご報告ありがとうございました。結果を見て意外でしたが、おしゃれな空間とか新しい先進的な空間よりも、従来型でより快適な空間の良さを求めているということが感じ取れました。</p> <p>現在の教室はかなり狭い状況にあり、かれこれ 50 年ぐらい前にできた教室なので、サイズがかなり小さく、その小さい空間に今は最大 40 人、30 人後半から 40 人で 1 クラスの児童がいる。我々が子どもの頃よりも、ランドセル等もかなり大きくなって、ロッカーにはランドセルを縦にして入れても落ちてしまうというような状況が発生しているため、広さに対する憧れがあるのかなと感じました。</p> <p>反対に、もっと広々とした空間の学校に通ったら、また別の結果になるのかなとも思いましたが、今の青堀小学校ではこのような結果になるのかなと思いました。その辺りを今後の校舎改築に活かしていただければなと思います。</p>
<p>柳澤教授</p>	<p>ありがとうございました。私も色々な学校でこのようなワークショップを行っています。以前、似たようなワークショップを低学年の児童を対象に行った時も、意外と現実的な回答がありました。小さい子たちですと、少し遊びの要素や面白いもの</p>

を選ぶのかなと予想していたのですが、かなり現実的なことを考えており、使いやすいだろうとか広々としているだとか、明るいだとか、素直に選択していました。なぜこれを選んだのか聞くと、かなりきちんとした答えが返ってきて驚きました。

今回のワークショップでも、児童が日々の生活の中で、現実的に課題を感じながら、改善を求めているのかなと感じました。

一方で、児童がおそらく体験したことがないと思われませんが、木のインテリアや円形のデザインといった今までにないユニークなものを求めるという傾向もあるのかなというようには思います。

また、好きな場所で教室が非常に多いというのは、これは自然な結果だと思うのですが、反対に、教室以外に子どもたちにとって居場所があまりないという現実もあると考えられます。青堀小学校の場合は、中庭や児童ホールといった他の学校にはない少し特徴的な空間があって、一部結果に出ていると思います。

子どもたちが過ごせるような場所が、教室以外にも室内にあるような学校でこのようなワークをやると、子どもたちの選ぶ場所はかなり分散します。青堀小学校のような従来型の教室が基本で、あとは廊下、外といった空間構成で、室内で過ごす場合というのは、教室に思い入れがある児童が多いです。

一方で、本当に教室が好きかという点、もう少しゆっくりできる場所があった方が良くといった結果が出てくる可能性もありますので、教室が非常に重要ではありますが、新しい学校では、教室以外にも子どもたちの多様な居場所を検討した方が良くかなという気もしました。

以上です。ありがとうございました。何かご質問等ありましたらお願いします。

<p>事務局 (山下係長)</p>	<p>よろしいでしょうか。ご質問等ないようですので、議題1青堀小学校児童のワークショップの結果を終了させていただきます。皆様ありがとうございました。</p> <p><b>【一同拍手】</b></p> <p>続きまして議題2グループディスカッションに移らせていただきます。事務局より、ディスカッションの流れについてご説明いたします。</p>
<p>事務局 (鈴木主任主事)</p>	<p>それでは、議題2、グループディスカッションについて説明いたします。資料の2、グループディスカッションの流れをお手元にご用意ください。初めに机上に配付させていただいた資料について説明いたします。写真は、児童ワークショップで実際に使用したもので教室の他、6諸室分用意しております。今回のディスカッションの参考としてご利用いただきたいと思っております。</p> <p>また、記入用紙が2枚ありまして、上部の諸室名に教室と入っているものが1枚。もう1枚は予備として、全て空欄になっているものを配付しております。</p> <p>資料2に沿ってディスカッションの進め方の説明になります。まず、進行役、記入役、発表役の方を決めていただき、役割が決まり次第、ディスカッションに移っていただきます。</p> <p>ディスカッションでは、配付した写真を参考に、教室や特別教室、廊下、トイレ等の校舎の空間について、どのようなイメージのものが良いかといった意見を出し合いながら、用紙にその諸室等の名称と、理想のイメージを記入してください。</p> <p>配付した写真はあくまで参考資料ですので、写真にとらわれすぎることなく、このようなイメージの空間にしたいというようなことを目的に議論いただければと思います。またディスカッション用に資料をご持参いただいている場合は、そちらを積</p>

極的にご使用いただければと思います。

なお、教室につきましては、両グループも共通で、初めに考えていただきたい諸室になりますので、まずは教室の理想のイメージから、ご議論していただきますようお願いいたします。教室以外の諸室につきましては、写真をお配りしている諸室、図書室等の諸室だけではなく、保健室や、多目的室といった写真を用意していない諸室についての議論でも構いません。また、グループとしての理想のイメージというものを、1つの意見にまとめるということもしませんので、自由に意見を出していただければと思います。

ディスカッション及び用紙への記入時間は 20 分程度を予定しており、まず教室のイメージについて議論いただき、残りの時間で教室以外の諸室について、可能な限りご議論いただければと思います。

記入が終わりましたら、1 グループずつ発表していただきます。それぞれのグループの発表が終了しましたら、振り返りとして、柳澤アドバイザーにご講評をいただければと思います。各工程の時間の目安につきましては、資料の最後、タイムスケジュールのとおりとなります。

経過時間や終了時間については、事務局から、随時アナウンスさせていただきます。以上でグループディスカッションの流れについて説明を終わります。何かご質問等がありますでしょうか。なければディスカッションに移りたいと思います。それでは役割が決まり次第、20 分程度でディスカッション及び用紙への記入を開始してください。

**【20 分のグループディスカッション】**

発表の準備はよろしいでしょうか。それでは現在からグループごとに、どんな意見が出たのか発表していただきます。まず

事務局

(鈴木主任主事)

平野委員

は、平野委員のグループからお願いします。

発表させていただきます。教室についての議論の時間を多くとらせてもらったので、教室の①、②、③、④の写真について皆様の意見をまとめて発表させていただきます。

まず①の写真についてです。カラフルで、低学年の子どもたちは喜びそうかなという意見が出ました。この写真だと、机が対面になっているので、グループディスカッションが行いやすそう、お互いの表情が見やすそう。また、カラフルで明るいのでぬくもりが感じられるという意見が出ました。その反面、高学年になると好みじゃなくなりそうという意見や、この窓の形はいかがなものかなということや、窮屈さを感じるという意見が出ました。

②の写真については、少しマイナスな意見が多かったです。暗い感じがする、椅子が欲しい、ロッカーが少し小さいという意見でした。ただし、少人数のときは②のような教室でも良いのかなという意見が出ました。

③の写真については、広くて開放的で採光も十分に確保できているというプラスの意見もありつつ、反対に、現在の教室とあまり変化がない、色彩による冷たいイメージがあるというような意見が出ました。

④の写真については、開放的で広く感じられる、木のぬくもりを感じられるというような意見が出ましたが、天井が低くて、少し圧迫感があるかなという意見になりました。④の教室に、③の教室のような仕切りがあったら良いなという意見が出ました。

まとめなくても良いとのことだったのですが、最終的な意見として、③と④の教室を組み合わせたものが良い教室なのかなというような意見が出ました。

次に図書室について議論しました。

理想は③の写真で、②と④の写真のような図書室は、低学年でも本に手が届くような造りなので低学年にとっては良いかなというところですか。また、本を読むところなので、外からの自然の光が入るような窓が②の写真のようにあったら良いなという意見が出ました。

次に児童ホールについて議論しました。④の写真のような開放的な空間が良いなという意見が出て、そこにピアノといった児童が興味を持ちそうなものを設置したりして、休み時間に集まったら良いなという意見が出ました。

以上が私達でまとめた意見です。ありがとうございました。

**【一同拍手】**

ありがとうございました。それでは、若月委員のグループの発表をお願いします。

はい、こちらのグループの発表をします。まず教室ですが、こちらのグループでは、単純に自分たちのイメージとして、どんなのが良いかというディスカッションをしました。

③と④の写真についての意見が多かったのですが、まず③についてですが、広くて仕切りがあり、休み時間や授業中の区別をつけるために仕切りがあって良いとの意見がありました。また、シンプルで、広さもあって先生の目が届く。あと、多様性があり、授業に合わせて改善できるところが良いという意見がありました。

④については扉がないので開放的であり、他の学校ではロッカーで廊下と教室の仕切りをしているところがあったというところで、そのような感じも良いのではないかという意見がありました。

また、どちらにも共通する意見になりますが、収納は大きい方が良く、木を使うと温かみがあるというところで、木をなる

事務局  
(鈴木主任主事)  
若月委員

べく使った方が良いというような意見がありました。一方で、木は虫が気になるという意見もありました。

続いてトイレですが、④の写真が良いという意見が多かったです。理由としては、シンプルで汚れが目立たない、床に段差がないトイレが良いという点が挙げられました。また、②と③の写真にあるような対面の手洗い場が良いのではないかという意見もありました。天羽中学校では、トイレの横に更衣スペースがあると聞いたことがあるので、そのようなスペースがあっても良いのではないかというような意見もありました。

続きまして図書室です。図書室は②と④の写真が良いのではないかという意見が多かったです。②については、段差がありますので、図書室としての機能の他に、発表会など段差を利用して、本を読む以外の利用方法もあるのではないかという意見がありました。あとは、子どもたちが利用しますので本棚はあまり高くない方が良いという意見がありました。

続きまして、児童ホールは、どのようなイメージのものといったことはないのですが、空間としてあった方が良いという意見となりました。また、児童ホールの①の写真のような、壁に落書きとか何かいろいろ書けるようなスペースを、教室に設置したら良いのではないかという意見がありました。

次に廊下については、④の写真のような開放的な廊下が良いのではないかというような意見が出ています。あとは、廊下に限らず、イベント等ができるような③の写真のような、広いスペースがあれば良いという意見が出ました。

中庭については、現在の青堀小学校にもすでに中庭があるのですが、今のように自然が多い環境が良いという意見が挙がっております。また、子どもたちは運動ができる場所があると良いというような意見が実際にありましたので、今ある小グラウンドのようなスペースがあればさらに良いのではというよう

<p>事務局 (鈴木主任主事)</p>	<p>な意見がありました。以上で発表を終わります。</p>
<p>柳澤教授</p>	<p>ありがとうございました。両グループとも、非常に活発にご議論いただきありがとうございます。それでは、ディスカッションの振り返りとして、柳澤アドバイザーよりご講評いただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>皆様、活発にご議論いただきましてありがとうございます。大体、子どもたちが議論したような内容に近いご意見が出たのかなという印象でした。</p> <p>前提として、写真だけで判断することに難しい部分は確かにあります。現物を見るのが一番良いと思いますが、なかなかそれが難しいということで、写真から受ける印象は、暗いとか明るいとか、解像度や色合いによって、どうしても人間の心理的などが左右されてしまうことがあるかと思います。また、窓が少ないのではといった意見や、狭いのではないかという意見についても、写真から受ける印象と実物が違うこともありますので、もしかすると写真だと限られた情報になってしまうというのがあるかなと思います。</p> <p>そういう視点は良いなと思いましたが、例えば低学年には向いているけど、高学年にはどうかというようなご意見です。実際私が学校の計画なんかをするときも、小学校では、1年生から6年生までかなり幅広い学生がおりますので、低学年に向けた教室のあり方というのと、高学年に向けた教室のあり方というのは実は違って、私が行っている場合もかなりデザインを変えたりします。</p> <p>例えば低学年というのは、体が小さいから教室も小さくて良いかと言うとそうではない部分があって、低学年こそ教室の中で様々な実習や作業したりするという点から、低学年の教室は少し広めに作ります。一方で高学年の方は、特別教室やコモン</p>

スペースのような空間に展開していきますので、教室は通常の大きさでも良いけれども、教室を移動して様々な学習ができるような環境にするなど、学年によって変えていくということも必要なのかなと思います。

天井の高さも議論しているのですが、天井の高さや形も、学年によって変えていくという考えもあるのかなと思います。

また、低学年ですと、なるべく外に出やすくしてあげるとか、中庭も現在はかなり離れていますが、直接外に出ていろいろ活動できるようにしてあげるといった空間の工夫もあります。そうすると、低学年の教室はなるべく下にあって、本当は全部の教室に接地性があって1階や2階に収まれば良いのですが、なかなか敷地の関係上難しい場合は、中高学年は上の階だけど、低学年を下の階に分けてすぐ外に出られるようにするというのも有り得るのかなと思いました。

現実的なところで、収納スペースや開放感があると良いというようなご意見は、教室の③の写真のように、ガラスの扉を閉められるような建具は、閉じてあまり閉鎖感がなく、ガラスで視認性を設ける役割も担っています。先生も管理しやすく子どもたちも非常に開放感を感じます。

一方で、④の写真のようなオープンスクール型の教室は、完全に壁がないと音の問題もありますので、うまく両立するような、③と④の写真の組み合わせが良いのではないかという話があり、なるほどと思いましたが、④の写真のような温かみのある教室の一方で、③の写真のようなスライディングドアによる開閉を組み合わせることもあるのかなと思いました。

他に教室以外のご意見も色々いただきましたが、十分な時間がなかったということで、開放感ですとか、多目的に使える廊下ですとか、青堀小学校にあります児童ホールなど、教室以外で色々な活動や授業のエクステンションとしても使える

ような空間も非常に重要になってきます。

図書室もこれからは、ただ本を借りるだけではなくて、そこで様々な調べ学習をしたり、子どもの居場所になったり、先ほどのワークショップの結果として、子どもたちの1人でいたい場所や静かにしたい場所として、図書室が挙げられていましたが、教室以外の子どもたちの居場所になるというようなこともありますので、図書室の意味もこれまで以上に大きくなっていくのかなと思います。また、②の写真の図書室のような段差がある空間がかなり人気だったようですが、私が計画した事例もいくつかありますが、図書室の中で座って本を読むこともありますし、何かを発表をしたり多目的に使えます。一方で、1人になれるちょっとした囲われたブースのような空間を設けるといった、このような新しい工夫をしていくということも重要だと思いました。

最近では学校だけではなく図書館もいろいろ変わってきていて、ただ本を読むだけではなくて、友達同士でコミュニケーションが取れるなど声を出せるブースや、場合によっては食事ができる空間があるといった事例が出てきていますので、そういった多様性も考えていくと良いと思います。

この辺りの話は、先ほどの児童ホールにも該当していて、みんなで集まれる広さも必要とされる一方、1人や数人で少し籠って何かできるような閉じられた空間や少し落ち着いた空間の両方がうまく共存できるような空間も求められるのかもしれない。

中庭は、運動ができる機能と自然としての機能があります。なかなかスポーツと自然は共有しにくいところもありますが、中庭をたくさん作れば良いのかというと、敷地面積的に難しい場合もあるかもしれません。うまく組み合わせて、軽い運動をしたり、みんなで様々なイベントや活動ができる一方で、自然

を感じたり座ったり、木陰で休めるといった魅力的な屋外空間をどう作っていくかというのもこれからの課題になると思います。

トイレは、子どもたちの意見と一緒に④の写真のトイレのようなシンプルさに魅力を感じ、段差がなくて使いやすいものが人気でしたね。一方で、対面式の手洗い場は、例えば特に女の子は立ち話しながら、手を洗っているときにお喋りしたりするのでかなり人気です。私の計画した事例でいくつか採用しています。あまり言及はなかったのですが、②の写真のようにちょっとしたベンチがある例というのは、トイレは若干生理的な空間ではありますが、コミュニケーションのきっかけにもなったりしますので、コミュニケーションを誘発するような仕組みというのもあると思います。

一度、ある東京都の中学校、各学年に男子用女子用便所が全部あるという学校で、それぞれの男の子、女の子グループを作ってもらって、トイレを改造しようというプロジェクトもやったことがあります。そのとき様々なテーマを自分たちで決めて、絵などでデコレーションをしていくことをやったのですが、学年のアイデンティティを入れていたので、トイレというのは、そのような意味で重要なかなと思いますし、そういった従来のあまりいいイメージのない生理的な空間を、よりポジティブな印象に変えるということも、重要なことだと思います。私の方からは以上です。ありがとうございました。

事務局  
(鈴木主任主事)

柳澤アドバイザー、ありがとうございました。ただいま委員の皆様に出していただいた意見やワークショップでの青堀小学校の児童の意見を参考に、基本構想・基本計画、それぞれの案を整理してまいります。以上で議題2グループディスカッションを終了いたします。

平野委員長	<p>続きまして議題3、令和4年11月17日第5回検討委員会グループディスカッション結果に対するアドバイザー講評に移りたいと思います。引き続き柳澤アドバイザー、よろしくお願いいたします。</p>
柳澤教授	<p>こちらは、前回行ったワークショップで、皆様に校舎の配置パターンを考えていただきました。これに対して簡単にコメントさせていただきたいと思います。実際に講評といっても、下の表に書いてある結果が大部分となりますので、これを読んでもいただければわかると思いますが再度講評させていただきます。</p> <p>パターンAについては、教室棟は南北に平行配置し、間を繋いで、体育館とプールを東側の方に並べるという校舎配置です。通常、校舎棟は一直線にして、南側に向けるようにするというのが一般的かと思いますが、青堀小学校の敷地の性格上、どうしてもこのような形で2つの教室棟に分ける方が、より現実的な配置になるということで考察しました。</p> <p>大きな問題点は特にないかと思います。校舎棟が分かれた場合に、棟の連続性をどうするかというところです。一つの考え方としては、普通教室を校舎棟の南側の方に持って行って、特別教室棟を北側にというような考えもありますし、先ほど述べたように、低学年と高学年で少し棟を分けるというような考えもあるかもしれません。校舎を2棟に分けた場合にどうするかというのは、実際の細かな計画の中で課題となってくると思います。</p> <p>また、もう1つの課題として、体育館とグラウンドの関係ということで、この場合、体育館とグラウンド、プールが離れてしまうと、授業の運営方法によっては体育館とグラウンドが近接していた方が使いやすいということが出てくることもあると思いますので、この辺の配置については少し検討が必要にな</p>

ると思いました。

さらに、見通しの面で、教室から校庭が直接見えないということで、必ずしも見える必要性はないのですが、管理諸室からは校庭が見えた方が良いということで、管理諸室をどう配置するのかということが課題になるかなと思いました。

パターンBについては、校舎は口の字型配置で、他の体育館やプールの配置については、パターンAと同じになります。これは先ほどの2棟にわかれる場合と比べて、廊下を回せば全体的な校舎の各教室の接続はそれほど悪くないので、中庭も入れて面白いユニークな空間ができるのかなと感じました。なので、非常に可能性はあるプランになると思います。

おそらく問題になるのは、教室の日照の問題で、どうしてもこの配置だと、西側に向いた教室が出てきます。西側にどういう教室を配置するのか、普通教室であるとどうしても西日対策が必要となってきますので、例えばこちらの西側には特別教室とか採光の問題があまり生じない部屋を配置するということになると思います。

一方で、先ほど述べたグラウンドの視認性を考えると西側に普通教室があった方が良いというような考えになりますので、教室の配置が少し課題になるかなというように感じました。

あとはパターンAと同じように、体育館、プールとグラウンドが離れてしまいますので、その関係性の問題というのが1つあります。

他には、中庭がユニークな空間として活用できると思いますので、この中庭をどう活用するかというのを、考えていかなければいけないと思います。

パターンCについては、ユニークなL字型の校舎の配置で、面白いのはグラウンドがあって、中庭的な受けの空間がプールと体育館の間であって、校舎棟が一番東側にあるということ

で、この受けの空間が何か広場のようにして使えるという意味では面白い配置なのかなと思いました。また、体育館やグラウンドはそのまま隣接していますので、この辺りの連続性も良いのかなと思いました。

このパターンの問題としては、グラウンドと教室棟が少し離れているので、アクセスが少し悪くなっています。

教室の方位については、南側に向けるものと東側に一部向いているもの部分もありますが、校舎の配置を斜めにしてるので、なるべく教室が南に向くように配置することはおそらく可能だと思いますので、大体の教室の南面配置が可能になり、方位的には問題ないと思います。色々な可能性があるプランなのかなと感じました。

それから最後のパターンDについては、これは最初のパターンAと近いプランで、課題についても大体同じことが言えるのかなと思います。

校舎が2つに分かれておりますので、校舎の連続性をどうするかというのと、南側と北側の校舎にどういう教室を配置するのかというのが大きな課題となってきます。先ほど述べたように、工夫をすればうまくゾーニングできるのかなと思います。体育館とプールが少し離れているとか、特に体育館とグラウンドのアクセスがやや問題にはなりません。

動線については、登下校の動線と、自動車の駐車場への動線は、全ての案に共通してうまく分離できるのかなとは思いますが、その辺りはこの配置図だけでは少しわかりにくいことありますが、特段問題はないのかと思いました。私の方からは以上です。ありがとうございました。

平野委員長

柳澤教授ありがとうございました。それではこの件について、委員の皆様から何かご質問等ございましたらお願いしたいと思います。はい、安藤委員。

安藤委員	<p>この配置図のお話ではないのですが、低学年、高学年で、できることが違うので年齢的なものに空間を合わせるといったお話をされていたと思うのですが、トイレは低学年の児童のトイレの個室の数は多く、高学年は少ないとかそのようなことはできるのですか。また、もう1点、児童数によってトイレの個室は何室までと違って決まっていたりはするのでしょうか。</p>
柳澤教授	<p>男子トイレであれば、小便器と大便器の割合ですとか、数は児童数で決まるのかとかそういったご質問ですか。</p>
安藤委員	<p>はい、そうです。</p>
柳澤教授	<p>同じ児童数であるという前提で考えると、低学年と高学年でトイレの個数を変えるというのは特にないのかなと思います。</p> <p>ですが、1年生や例えば幼稚園生とかだと、教室に近いところにトイレを設けるとか、場合によっては教室の中にトイレを内包することもあるので、あまりトイレが多くならないような仕組みが必要なのかなと思いますが、小学校の場合はトイレにはそれほど大きな差はつけません。</p> <p>日本の場合は、トイレに行ける時間が限られており、休み時間にかなり集中しますので、個数はそれなりに用意しなきゃいけないというのは、現実としてはあります。海外では、授業中でも児童が頻繁にトイレに行っていて、人が分散されるので、あまり個数は必要ない部分があります。</p> <p>また、別の議論として、個室ブースを増やすかどうか、最近のLGBTといった様々な問題もあります。小学生の場合、学校で大便をできないというような話だと、反対に全部個室にしておいた方が、あまり気にしなくなって、トイレを使いやすくなるのではないかという議論もあります。</p> <p>九州の私立学校では、私の考えではなく学校側の要望で、トイレを全部個室にした事例もありました。あとは、日本ではあまりないのですが、北欧のある国では、男女の区別をしないで、</p>

トイレという共通認識で、男女別にトイレを分けないという考えもありますし、トイレの問題については、これからいろいろ課題となります。

学校だけでなく、一般のトイレも様々な議論があります。うちの学生の1人もジェンダーレストイレについてずっと修士論文で行っておりますが、最近、新宿に作った歌舞伎町タワーのジェンダーレストイレも、設置した途端に問題が起こって、もう1回男女別に分けたというような話もあったのですが、なかなか学校の問題だけではなく、トイレをどう考えていくのかというのは、非常に重要な問題になります。

校長先生から、現実になにかトイレの問題があれば教えていただきたいです。

河野副委員長

現状そんなにトイレでの問題というのはないのですが、低学年は休み時間になると一気にトイレに押し寄せる状況で、トイレを失敗してしまう回数も多いんですね。現在は改修をしていただいて綺麗になったのですが、どうしても低学年のトイレが汚れてしまい、臭いも強くなってしまいます。なので、お手入れのしやすさや使いやすさというのを学校の意見にはなりますが、お願いしたいところです。

安藤委員

どうもありがとうございました。

平野委員長

ありがとうございました。その他の委員の皆様から何かご質問等ございますか。それでは他にはないようでございますので、議題3令和4年11月17日第5回検討委員会グループディスカッション結果に対するアドバイザー講評を終了とさせていただきます。以上をもちまして全ての議題を終了いたします。

<次第4 その他>

続きまして、次第4その他でございますが、委員の皆様から

<p>事務局 (山下係長)</p>	<p>何かございますか。また聞き漏らしたこと、確認したいことでも構いませんので、ありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では、事務局からなにかありますか。</p> <p>事務局より、ご連絡させていただきます。次回の会議と、今後の予定について申し上げます。</p> <p>モニターをご覧ください。会議スケジュールを表示させていただいております。次回 12 月の会議は、これまでの皆様のご意見や児童ワークショップ、アンケート等を踏まえまして、基本構想・基本計画案をご提示する予定です。その際には、この計画案に対し、皆様からの意見を頂戴し修正等が生じることが予想されますので、予備日程として、1 月の会議も想定しており、修正案の確認をいただくことを考えております。したがって、1 月の会議も開催する可能性があるということを、あらかじめご了承くださいればと思います。</p> <p>次回 12 月の第 10 回検討委員会は、富津市役所にて開催を予定しておりますので、日程等詳細が決まり次第、ご連絡させていただきます。お忙しいところ大変恐縮ですが、ご出席の方よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>平野委員長</p>	<p>それでは以上をもちまして、全ての議事を終了といたします。円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。</p>
<p>事務局 (山下係長)</p>	<p>&lt;次第 5 閉会&gt;</p> <p>平野委員長議事の進行ありがとうございました。皆様、本日は貴重なご意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。また、柳澤アドバイザー、千葉大学の柳澤研究室の学生の皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>それでは以上をもちまして、第 9 回青堀小学校改築基本構想・基本計画検討委員会を閉会させていただきます。</p>